

## 没後百年田中芳男先生年譜

A Chronological List of Baron Yoshio Tanaka (100th Anniversary after His Death)

保科 英人  
(福井大学教育学部)

### I. 日本の博物館の父・田中芳男

江戸時代の後期、信濃国天領の医師の子として生まれた田中芳男 (1838–1916) は、幕末の国難のさなか外国語学と博物学を修め、その才覚でもって幕府の蕃所調所に登用された。幕府の命令で、つまり公務として本格的昆虫採集を行った最初の日本人は田中芳男である。やがて明治維新が成った。徳川幕府を倒しつつも人材難にあえいでいた明治政府は有為の田中を野に置くことをしなかった。田中は維新後明治政府の官僚として、様々な行政の場で重きをなしていく。維新直後の明治初期には日本の近代化学の源流とも言うべき大阪舎密局の設立及び運営に尽力した。その後幾度となく万国博覧会に派遣されたことも有名である。さらに、近代博物館や動物園の建設にも深く携わったほか、大日本農会、大日本山林会、大日本水産会などの会頭・役員を務めた。このように、田中が生涯を通じ関与した学問領域は動物学、昆虫学、植物学、外国語学、化学、博物館学、農学、林学、水産学と多岐に渡った。ただし、明治時代の田中は確かに博物学者として海外の最新学問事情に通じていたが、学界の最前線に身を置き帝国大学等で研究に専念するのではなく、官僚としてその発展を支える側に回った。博物館建設に対する彼の貢献度は大きく、科学史の分野では田中を「日本の博物館の父」と呼ぶことが多い。

平成 28 年は田中芳男没後 100 年にあたる。その節目の年に、雑誌『農業』は田中芳男氏没後百年顕彰計画として特集を組んだ<sup>(1)</sup>。また、田中の故郷にある飯田市美術博物館は「田中芳男没後 100 年記念特別展。南信州郷土の偉人たち (仮)」との特別展を同年 10 月 1 日から 11 月 27 日まで開催する予定である<sup>(2)</sup>。

一方、筆者は田中が 30 年近く勅選貴族院議員でありながらも、彼の帝国議会における議員活動が全く知られていないことに気付いた。そこで帝国議会の議事録から、田中が所属した議会の常任委員会及び特別委員会の委員就任歴をリスト化し、各委員会における田中の発言を分析した<sup>(3)</sup>。

議員時代の田中芳男は議会で派手なパフォーマンスを繰り広げたわけではない。そして、議会で活発に発言しながらも、彼が口を挟んだ議案は農林水産業、動植物学、物産、博物館などの自らの専門に関連した法案が殆どだ。一方で、新聞紙条令中改正法案や国務大臣非難の建議案といった政治政局が絡む案件に対しては議場で頑なに口を閉ざした。貴族院内政治会派の離合集散や主導権争いにも加わらなかった。明治政府に登用された他の旧幕臣同様、田中もまた政治闘争の場から距離を置いていたのである。

キーワード: 田中芳男, 年譜, 博物学, 科学史

\* Hideto Hoshina

(Faculty of Education, Fukui University, Fukui City, 910–8507 Japan)

科学史の重要人物である田中芳男については田中義信氏を始めとする方々の先行研究が多い。年譜についていえば主に4件が既に発表されている<sup>(4)</sup>。しかし、最近筆者はこれらとは別の2編の未刊行史料『華族履歴』『田中芳男履歴書』<sup>(5)</sup>の田中の年譜を閲覧する機会に恵まれた。特に『華族履歴』からは、田中が務めた様々な博覧会関係の委員手当・報奨金の金額まで知ることができた。

とは言え、先行4件、特に田中義信『田中芳男十話・田中芳男経歴段』収録の年譜は非常に完成度の高いものであり、2編の未刊行史料等で得られた新知見は極めて僅かである。にもかかわらず、改めて本稿にて田中の年譜を作成した理由は以下の3点である。

- 1) 事項数としては極少数ながらも2編の未刊行史料『華族履歴』『田中芳男履歴書』掲載の新知見を追加すること。
- 2) 飯田市美術博物館編『日本の博物館の父田中芳男』と田中義信『田中芳男十話・田中芳男経歴段』共に現在入手困難な文献であり、かつ所蔵している公共図書館は少ない。一方、本稿が掲載されている雑誌『日本海地域の自然と環境』は出版後ほどなくしてインターネット上で無料公開されること。
- 3) 『田中芳男十話・田中芳男経歴段』収録の年譜は数日単位の出張記録を網羅するなど田中の動向に関する知見の集大成である。その一方で必然的に文量が多くなっているため、田中の生涯を一見で概観するには却って不都合な場合があること。

上記3点の理由を踏まえ、本稿の年譜はあくまで先行4件、特に『田中芳男十話・田中芳男経歴段』収録の年譜をベースとして、筆者が知り得た新知見を足していく形で作成した。当然、同じ事項にも拘わらず諸史料の間では年代が違う等の矛盾が一部で生じている。その場合は、田中芳男に関する著作が多い田中義信氏の言説を優先した<sup>(6)</sup>。

また、本稿で作成する年譜はあくまで『田中芳男十話・田中芳男経歴段』収録の年譜を概略改良版である。田中が「どこの外国にいつ行った」「どのような職に就いたか」等の事績を主に取り扱う一方、「何月に国内のどこそこへ出張した」等の記録を全て網羅すると煩雑になるのでその大半を割愛した。

さらに田中の著作にまつわる知見は本稿の年譜に全く含めていない。彼の著作目録については別の資料<sup>(7)</sup>に代表される既存文献を参照するのが便利である。

## II. 田中芳男概略年譜（改良版）

下記の年譜内の表記法につき一部解説しておく。年齢はその年の元旦時における満年齢で、旧暦から新暦への変換は行っていない。次に各年度別の事項のうち、I章注釈(4)で引用した先行4件で記されている事績については典拠史料を示していない。帝国議会貴族院における田中の特筆すべき議員活動の記述については拙文「没後100年・帝国議会における元虫捕御用の田中芳男」<sup>(1)</sup>に基づいている。2件の未刊行史料『華族履歴』『田中芳男履歴書』及び拙文<sup>(1)</sup>に基づく知見の典拠史料を以下の略号で明記した。

『華族履歴』: K

『田中芳男履歴書』: R

「没後100年・帝国議会における元虫捕御用の田中芳男」(『ビオストーリー』): B

さらに、上記以外の典拠文献やその他別記事項については、それぞれ文章末の注釈との形で記している。

**天保 9 年 (1838 年) 0 歳**

天保 9 年 8 月 9 日、田中芳男は医師田中隆三（如水）の 3 男として信濃国伊奈郡飯田荒町（現在飯田市）に生まれる。幼名芳介、のち東陽（斎）と号する。

**嘉永 3 年 (1850 年) 12 歳**

学医につき四書、五経、左傳等の句読を受けるとともに、後学僧につき漢書の講義を受ける (K) <sup>(2)</sup>。

**安政元年 (1854 年) 16 歳**

兄文輔が没したため芳男が家督を継ぐ。

**安政 3 年 (1856 年) 18 歳**

名古屋に出て尾張藩儒者塚田氏（塚田文太郎のことか？）に漢籍を学ぶ。

**安政 4 年 (1857 年) 19 歳**

尾張藩蘭方医の伊藤圭介の門下となり西洋医術・蘭学・本草学を学ぶ。

**安政 5 年 (1858 年) 20 歳**

尾張の本草研究会である嘗百社の採集旅行に参加、伊勢国菰野山で植物等を採集する。

**万延元年 (1860 年) 22 歳**

飯田の実家に戻り独学で研究を続ける。天文学、地理学、化学などの翻訳書を読む。

**文久元年 (1861 年) 23 歳**

幕府蕃書調所に物産学が設けられ、師の伊藤圭介が出役として抜擢される。芳男は圭介に随行し、10 月 25 日江戸に到着。11 月、師の伊藤と共にシーボルトに会う。

**文久 2 年 (1862 年) 24 歳**

蕃書調所物産方手伝出役に登用される。手当は七人扶持金五両。アメリカから渡来した野菜・穀物・豆類の目録を作成し栽培を開始。その後、ロシア、オランダ、英国から輸入された種苗の試験栽培を行う。

**文久 3 年 (1863 年) 25 歳**

2 月 14 日開成所教授でドイツ語学者および化学者の市川兼恭と会う <sup>(3)</sup>。10 月、西洋医学書の池田多仲の指導のもと馬を解剖する。化学所の宇都宮鑛之進（三郎）から化学を学ぶ (K)。この年、西洋医学所の緒方洪庵から九段坂下の薬草園の管理を委託される。また、物産所でフランスの野菜や樹木の種子 120 種を播く。その後幕府崩壊まで様々な植物の栽培に携わる。

**元治 2 年 (1865 年) 27 歳**

3 月、十五人扶持金十両に増俸となる (K)。

**慶應 2 年 (1866 年) 28 歳**

パリ万国博覧会出品用標本収集のため、2～7 月、虫捕御用として相模・伊豆・駿河の東海地方を回り、昆虫を採集する。父の隆三死去の報を受け一時帰郷。11 月 21 日、幕府より万国博覧会へ出張を命じられ、昆虫標本 56 箱を携え、品川沖を出港。

**慶應 3 年 (1867 年) 29 歳**

1 月 2 日、シンガポール着。その後、スエズ、アレキサンドリアを経て、2 月 19 日パリに到着。その後博覧会場で出品物の展示に従事。パリ滞在中に自然史博物館や植物園などを見学する。10 月に帰国するが、同月 14 日に大政奉還、新時代始まる。12 月、幕府開成所内物産所にてフランスから持ち帰った収集品を公衆に観覧に供するため仏国帰朝携帯物品展覧会を開催する。

**慶應 4 年・明治元年 (1868 年) 30 歳**

4 月 11 日、江戸城が無血開城し、名実ともに徳川幕府の時代が終焉する。6 月 18 日、鎮台府から開成所御用掛を仰せ付けられる。同月 25 日幕府出役を免ぜられ、英和字書 2 部を賜る (K) <sup>(4)</sup>。7 月、幕府が江戸開成所に建設していた理化学学校を大坂に移

転させることが決定、同月芳男は大坂行きを命ぜられる。夏頃、オランダ人化学教師ハラタマと共に大坂着<sup>(5)</sup>。9月、理化学学校である舎密局の御用掛となる。この年、日本初と思われる魚類の剥製標本を作製する。

**明治2年(1869年) 31歳**

舎密局オランダ人化学教師のハラタマの生野銀山出張に同行する。この年、三澤良益の養女ゑいと結婚する。

**明治3年(1870年) 32歳**

3月、大学出仕を命ぜられる。4月、舎密局は大学管轄となる。田中らの意見書により5月26日舎密局は理学校と名が改まる。8月、政府より東京帰還の指示を受け大坂を離れる。9月、大学南校に出仕。

**明治4年(1871年) 33歳**

5月、大学南校物産会を九段坂下の招魂社付属地内にて開く。同月、同物産会の展示物を皇居吹上内に陳列し、明治天皇に陳列品の説明を行う。7月、文部省出仕を命ぜられる。8月、文部少教授。9月、編輯権助に任ぜられ博物局掛を命ぜられる。12月、正七位となる。

**明治5年(1872年) 34歳**

1月、町田久成とともに奥太利国博覧会御用掛の兼務を命ぜられる。同月、文部省七等出仕。3月～4月、文部省博物館として湯島聖堂大成殿にて博覧会を開く。9月、文部省六等出仕。同月、従六位に叙せられる(K)。10月、博覧会事務官となる。

**明治6年(1873年) 35歳**

1月、博覧会一等事務官となり、ウイーン出張を命ぜられる。同月、奥国へ出立につき白絹二疋為幣物白絹一疋を下賜される(K)。同月末横浜出港、3月ウイーン着。現地では万国博覧会の審査員を兼務。

**明治7年(1874年) 36歳**

1月、博覧会事務局副総裁の佐野常民らとともにイタリア訪問。3月、欧州より帰国。6月、文部省六等出仕。8月、内務省勸業寮六等出仕兼務。9月、正院博覧会事務局六等出仕兼務。

**明治8年(1875年) 37歳**

2月、米国博覧会事務取扱を命ぜられ、博覧会事務局五等出仕兼勸業寮五等出仕となる。3月、内務省五等出仕兼勸業寮五等出仕。同時に内務省博物館掛及びウイーン万国博覧会残務取調掛。5月、フィラデルフィア万国博覧会事務官。6月、第六局事務担当となる。

**明治9年(1876年) 38歳**

1月、博物館事務担当(K)。同月、シーボルト記念碑設立賛助募金の事務取扱人となる。2月、内務省権大丞兼勸業寮五等出仕(K)。同月、米国へ出立のため白絹二疋及為幣物白絹一疋を下賜される(K)。3月、米国フィラデルフィア万国博覧会出張のため日本を発つ。同月、正六位に叙せられる。米国滞在中は種苗園や博物館、動物園、葡萄酒醸造所を見学する。8月帰国。同月、内国勸業博覧会事務局取扱を命ぜられる。9月、勸業寮農務課植物掛・農学課長・博覧会掛となる。

**明治10年(1877年) 39歳**

1月、内務権大書記官に任ぜられるとともに、博物局事務取扱及び奥国博覧会残務取扱を命ぜられる。同月、勸農局事務取扱兼務。2月、仏国博覧会事務取扱。6月、仏国博覧会御用掛。9月、内国勸業博覧会審査官を命ぜられる。12月、オーストリア皇帝から贈られたフランツヨーゼフ・ノ・リッテルクロイツ勲章(騎士十字章)の受領と佩用を許可される。



**明治 11 年 (1878 年) 40 歳**

6 月，勲五等に叙せられるとともに双光旭日章を受章。同年，小笠原諸島に熱帯植物を移植することを建議。

**明治 12 年 (1879 年) 41 歳**

5 月，フランスから贈られたシュヴァリエ・ド・ラ・レジオンドヌール勲章（勲五等騎士章）の受領と佩用を許可される。10 月，勸農局事務取扱兼博物局事務取扱を仰せ付けられる。11 月，勸農局報告課長を命ぜられる。12 月，綿糖共進会開設のため，勸農局長代理として大阪出張。

**明治 13 年 (1880 年) 42 歳**

3 月，メルボルン万国博覧会事務官を命ぜられる。4 月，第二回内国勸業博覧会事務官。5 月，内国勸業博覧会出品・編輯課長。9 月，内務大書記官。同月，東京府下日本橋区箔屋町失火の際，罹災者へ 15 円を供出したことに対し，木盃 1 個を下賜される (K)。10 月，従五位に叙せられる。12 月，内国勸業博覧会第五区審査部長となる。

**明治 14 年 (1881 年) 43 歳**

1 月，内国勸業博覧会審査幹事。4 月，農商務大書記官。同月，農商務省農務局長。同月，博物局事務兼務。同月，開拓使下函館区堀江町失火の際，罹災者救助及び道路改良費として 15 円を供出したことに対し，木盃 1 個を下賜される (K)。7 月，博覧会掛兼務。8 月，水産博覧会事務取扱兼務を申し付けられる。同月，博物局天産課長兼農産課長となる。9 月，米麦大豆煙草菜種共進会幹事・水産博覧会幹事を命ぜられる。11 月，所蔵書籍 10 部を内務省に献納し銀盃 1 個を下賜される (K)。12 月，東京府下神田区今川小路失火の際，罹災者へ 15 円を供出したことに対し，木盃 1 個を下賜される (K)。

**明治 15 年 (1882 年) 44 歳**

10 月，博物局長兼任となる。

**明治 16 年 (1883 年) 45 歳**

1 月，水産博覧会審査長を命ぜられる。4 月，農書編輯掛。6 月，元老院議官に勅任される。同月，農商務省御用掛兼務となり，農書編輯掛長及び博物局事務取扱を命ぜられる。7 月，従四位に叙せられる<sup>(6)</sup>。11 月，勲四等に叙せられ旭日小綬章を受章。

**明治 17 年 (1884 年) 46 歳**

2 月，繭糸織物陶漆器共進会審査長となる。

**明治 18 年 (1885 年) 47 歳**

3 月，元老院議官の官等が定められ，田中芳雄は三等官相当となる。4 月，大日本農会幹事長。同月，大日本水産会幹事。7 月，明治 23 年東京において亜細亜大博覧会開設につき該会組織取調委員を仰せ付けられる (K)。11 月，勲三等に叙せられ旭日中綬章を受章。同月，大日本織物協会の副会頭となる (K)<sup>(7)</sup>。12 月，東京学士院会員に選出される。

**明治 19 年 (1886 年) 48 歳**

3 月，勅任官二等に叙せられる。3～4 月に上野公園で開催された大日本水産会の水産共進会で審査長となる。11 月，第三回内国勸業博覧会組織取調方を委嘱される (K)。

**明治 20 年 (1887 年) 49 歳**

4 月，大日本水産会の水産教育機関設置調査委員となる。9 月，農商務省から農書編輯を囑託される。

**明治 21 年 (1888 年) 50 歳**

9 月，宮内省臨時全国宝物取調局の委員となる。

**明治 22 年 (1889 年) 51 歳**

3 月開催の東京共進会で幹事長を務める。4 月，水産誌編輯事業を囑託される。11 月，

第三回内国勸業博覧会第三部審査部長。同年、日本園芸会副会頭。11月、憲法発布記念章を授かる (K)。

**明治 23 年 (1890 年) 52 歳**

9月、貴族院議員に勅選される。勅選議員は終身が原則なので、田中芳男もまた死去まで議員を務めることとなる。元老院議官在職中の賞として金 800 円を賜る。10月、錦鶏間祗候を命ぜられる。11月、藍綬褒章受章。同月、第三回内国勸業博覧会審査の賞として金 400 円を賜る (K)。同月、第一回帝国議会開会。同月、伊勢山田豊川町外宮前の農業館建設の建設委員長となる。

**明治 24 年 (1891 年) 53 歳**

1月、恩給金 400 円を賜わる (K)。4月、大日本農会幹事長になる。同月、大日本教育会の名誉会員となる。

**明治 26 年 (1893 年) 55 歳**

8月、第四回内国勸業博覧会評議員を命ぜられる。

**明治 27 年 (1894 年) 56 歳**

5月、正四位に叙せられる。6月、大日本山林会幹事長となる。7月、大婚二十五年祝典の章を拝受する (K)。

**明治 28 年 (1895 年) 57 歳**

1月、第四回内国勸業博覧会審査第三部長となる。5月、水産調査会委員となる。11月、第四回内国勸業博覧会評議員の賞として金 150 円を賜る (K)。

**明治 29 年 (1896 年) 58 歳**

3月、審査事務特別勲励につき金 500 円を給与される (K)。同月、第9回帝国議会貴族院にて博物館建設を建議する (B)。また、この議会で政府より提出された輸入綿花海関税免除法律案に対し、綿作農家保護の立場から徹底的に反対する (B)。さらに綿作業保護の建議案では鎌倉時代の和歌まで引用して国内綿作農家及び産業の保護発展を訴える (B)。同月、大日本水産会幹事長に選ばれる。同月、勲二等に叙せられ旭日重光章を受章する。5月、水産調査会委員手当として金 300 円を給与される (K)。6月、水産博覧会評議員を仰せ付けられる。11月、臨時博覧会評議員を命ぜられる。12月、臨時博覧会評議員手当として金 100 円を給与される (K)。同月、第二回水産博覧会評議員事務勲励につき金 200 円を給与される (K)。

**明治 30 年 (1897 年) 59 歳**

1月、第二回水産博覧会評議員及び審査官を命ぜられる。3月、臨時博覧会の出品に関する事項の調査を囑託される。5月、水産調査会委員手当として金 300 円を給与される (K)。同月、農商務省から水産講習所商議委員を囑託される。10月、従三位に叙せられる。12月、第二回水産博覧会事務局より事務特別勲励につき金 800 円を賞典される (K)。同月、臨時博覧会事務格別勲励につき金 100 円を賞典される (K)。

**明治 31 年 (1898 年) 60 歳**

3月、農商工高等会議臨時委員を命ぜられる<sup>(8)</sup>。7月、第二回水産博覧会の事務格別勲励につき金 200 円を賞典される (K)。11月、農商工高等会議臨時委員手当として金 200 円給与される (K)。

**明治 32 年 (1899 年) 61 歳**

7月、大日本山林会総会を奈良市で開催する。

**明治 33 年 (1900 年) 62 歳**

2月、第16回帝国議会貴族院にて、田中は名和昆虫研究所国庫補助に関する建議案の賛成者となり、同研究所支援の必要性を議会の場で訴える (B)。7月、大日本山林会総会を静岡市で開催する。12月、三重県南部六郡聯合物産品評会で審査総長を務める。

**明治 34 年 (1901 年) 63 歳**

1 月，第五回内国勸業博覧会評議員を仰せ付けられる (K)。4 月，宮内省より上野公園修理調査委員を命ぜられる。5 月，名和昆虫研究所の昆虫展に立ち会う<sup>(9)</sup>。同月，臨時博覧会事務勸励賞与として金 100 円を給与される (K)。6 月，第五回内国勸業博覧会の勸励賞与として金 200 円を給与される (K)。7 月，大日本山林会総会を青森市で開催する。11 月，第五回内国勸業博覧会審査第一部長を命ぜられる。12 月，上野公園修理調査委員賞与金として 50 円下賜される (K)。

**明治 35 年 (1902 年) 64 歳**

2 月，第 16 回帝国議会貴族院の害虫駆除予防法中改正法律案の第一読会で，政府委員の和田彦次郎にカイガラムシ駆除の現状について厳しく糾弾。和田よりカイガラムシの駆除研究については別個駆除試験を行うことを約束させる (B)。3 月，東京高等農学校校長を委嘱される。10 月，大日本山林会総会を名古屋市で開催する。11 月，大日本農会副会頭に推薦される。12 月，宮内省より金 30 円下賜される (K)。同月，第五回内国勸業博覧会手当として金 200 円を給与される (K)。同年，日本材木業聯合協会会長となる。

**明治 36 年 (1903 年) 65 歳**

4 月，大日本山林会総会を岡山市で開催する。7 月，臨時博覧会評議員となる (R)。9 月，臨時博覧会評議員手当として金 500 円を給与される (K)。12 月，翌 37 年度の東京学士会院の幹事に選出される<sup>(10)</sup>。

**明治 38 年 (1905 年) 67 歳**

4 月，明治三十七八年戦役の軍資及び恤兵費として金 200 円を献納し，賞として木盃一個を下賜される (K)。12 月，明治三十七八年戦役の従軍者家族扶助のため金 50 円を寄付し，賞として木盃一個を下賜される (K)。

**明治 39 年 (1906 年) 68 歳**

4 月，勲一等に叙せられ瑞宝章を受章する。同月，創立二十五周年を迎えた大日本山林会を三会堂で開催する。6 月，博覧会開設臨時調査会委員を仰せ付けられる (R)。同月，帝国学士院会員となる。10 月，凱旋記念五二共進会の審査部長を務める。

**明治 40 年 (1907 年) 69 歳**

3 月，博覧会臨時調査員の委員手当として金 100 円を給与される (K)。6 月，名和昆虫研究所標本室落成式及び附属農学校開講式に出席する<sup>(11)</sup>。11 月，大日本山林会総会を長野県上田町で開催する。12 月，大日本農会名誉顧問に推薦される。

**明治 41 年 (1908 年) 70 歳**

2 月，援護会へ金 100 円を寄付し，その賞として木盃一個を下賜される (K)。6 月，日本大博覧会評議員を命ぜられる (R) (K)。7 月，大日本山林会総会を秋田市で開催する。10 月，台湾縦貫鉄道全通式出席のため神戸を出港。台湾では熱帯性植物を調査したほか，台北の博物館や農事試験場などを見学する。

**明治 42 年 (1909 年) 71 歳**

4 月，日英博覧会評議員となる。10 月，大日本山林会総会を京都市で開催する<sup>(12)</sup>。11 月，九州鉄道全通式に出席する。

**明治 43 年 (1910 年) 72 歳**

4 月，生産調査会委員を命ぜられる。12 月，生産調査会委員の手当として金 300 円を給与される。

**明治 44 年 (1911 年) 73 歳**

5 月，中央線開通式に出席する。同月，大日本山林会総会を金沢市で開催する。伊勢神宮徴古館・農業館評議員に任ぜられる<sup>(13)</sup>。

**明治 45 年・大正元年 (1912 年) 74 歳**

6 月，山陰線開通式に出席する．7 月，明治天皇崩御し，時代は大正となる．8 月，韓国併合記念章を授与される (R)．

**大正 2 年 (1913 年) 75 歳**

5 月，「田中芳男君七六展覧会」が東京赤坂溜池町三会堂で開催される．8 月，大日本山林会総会を札幌市で開催する．

**大正 3 年 (1914 年) 76 歳**

2 月，台湾出張を命ぜられ神戸を出港するが，流感に罹り門司から帰京する．4 月，徳島県で開催された大日本山林総会に出席する (B)．6 月，正三位に叙せられる．

**大正 4 年 (1915 年) 77 歳**

4 月，大日本山林会の会則改定で田中芳雄は幹事長から会長となる．同月，大日本山林会総会を静岡市で開催する．5 月，友人の花房義質子爵に書簡上で「最近議会の場で耳が遠くなり，腕が痩せ細った」と弱音を吐く (B)．朝鮮鉄道一千哩記念祝賀式出席のため，東京を発ち 9 月 30 日に京城着．10 月 21 日に帰京．11 月，大禮記念章を授与される．12 月，男爵の爵位を授けられ，華族に列する．

**大正 5 年 (1916 年) 78 歳**

4 月，大正三四年事件の功により金 1500 円を賜る (K) (R)．6 月 14 日，神経痛に加え胃潰瘍を併発，重体に陥る．同月 21 日特旨をもって従二位に叙せられる，翌日の 22 日逝去．もっとも，22 日逝去と言うのは公式発表であり，実際に亡くなったのは 20 日午後 6 時であるらしい．

### III. 追記．朝日新聞記事に見る田中芳男の足跡

筆者は田中が生きた同時代の東京朝日新聞及び大阪朝日新聞の記事から田中の足跡を拾うことを試みた．前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』と田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」収録の年譜は 1 日単位の田中芳男の動向が掲載されるが，同時代の新聞記事からはこれら 2 編の年譜未掲載の一層詳細な田中の足取りが追跡できる場合がある．ただ，1 日単位の田中の細かい動向や彼が乗船した船の名前等を II 章の年譜に含めることは，概略改良版年譜を作成するとの本稿の目的にそぐわない．そこで，この III 章にて追記という形で，新聞記事上に表れた田中の細かい足跡を記録することとした．無論，現在と同様，新聞掲載記事は絶対に正しいわけではない．発行時期の時代が古ければ猶更その傾向は強い．従来の知見と新聞記事が異なる場合は，その都度注釈にて指摘した箇所もある．今のところ新聞記事でしか確認できない田中の動向も少なからずあったが，それらは新聞記事に無条件に従った．なお，明治 23 年に田中芳男が貴族院議員になった等，既に十分知られている田中の履歴に絡む記事についてはあえて再録していない．筆者が特記すべきと考えたものだけ記録した．

明治 12 年 1 月 25 日に大阪で創刊された「朝日新聞」は，同 21 年春に自由党・星亨の機関紙「めざまし新聞」を買収して，本格的に東京へ進出した．翌 21 年 7 月 7 月 10 日に「東京朝日新聞」が発足している．一方，大阪の朝日新聞は翌 22 年 1 月 3 付紙面より「大阪朝日新聞」と称した<sup>(1)</sup>．もっとも両朝日新聞は別新聞と言えども，東京・大阪の両朝日新聞は共通の記事が多く，大阪朝日新聞の方にのみ掲載された田中の特記すべき記事は見出すことはできなかった．

本稿では以下のような略記で抜粋記事の引用元を，2 新聞の名称・和暦・月日の順で記した．朝日新聞と東京朝日新聞はそれぞれ A, T, 明治と大正は M, T, 年月日をアラビア数字で表記した．

(例)

明治 16 年 1 月 13 日付朝日新聞： A. M16. 1. 13

明治 28 年 6 月 3 日付東京朝日新聞： T. M28. 6. 3

大正元年 11 月 12 日付東京朝日新聞： T. T1. 11. 12

### 明治 13 年 (1880 年)

朝日新聞記者に対し 2 月 15 日に開催される綿砂糖共進会開式の入場券一枚が、田中芳男名で送られる (A. M13. 2. 14).

内務省権大書記官田中芳男は、徳島県板野郡神宅村の砂糖製造所および徳島県庁勸業課を近々視察予定と聞く (A. M13. 5.16) <sup>(2)</sup>.

愛知県名古屋に滞在中の内務省権大書記官田中芳男は一昨日 (6 月 3 日) 同地を出立という (A. M13. 6. 5) <sup>(3)</sup>.

### 明治 14 年 (1881 年)

国内温泉の調査のため、農省務省農務局長田中芳男は温泉の有無につき関係府庁に照会予定 (A. M14. 9. 27).

### 明治 16 年 (1883 年)

6 月 8 日、東京上野公園水産博覧会の閉場式では幹事田中芳男の先導により西郷従道農商務卿が式場に臨んだ (A. M16. 6. 13).

### 明治 17 年 (1884 年)

海軍主船局の磯部包義中佐、陸軍参謀本部の関定暉少佐、農商務准奏任御用掛の田中芳男の諸氏は 4 月 27 日、午後高砂丸にて横浜から神戸に着く。田中は有馬温泉に赴く (A. M17. 4. 29). 田中は 5 月 20 日有馬温泉より神戸に出て第一淡路丸にて淡路島へ赴き、数日間滞在のち神戸に戻る予定 (A. M17. 5. 22). そして、田中は 5 月 23 日、淡路島から神戸に戻り、同日午後京都に到着 (A. M17. 5. 24).

元老院議官田中芳男は 6 月 13 日、高知より浦戸丸にて神戸に帰着。海岸通西村方に宿泊 (A. M17. 6. 15). 田中は 6 月 17 日、神戸の官衙を視察し、同日夕方発の東京丸にて帰京する予定 (A. M17. 6. 18) <sup>(4)</sup>.

元老院議官農商務博物局御用掛田中芳男閱、河原田成義撰の鰯図解一覽 (東京大日本水産会蔵版) が安土町心斎橋筋書林鹿田静七方より売り出される (A. M17. 8.28) <sup>(5)</sup>.

### 明治 18 年 (1885 年)

6 月 5 日、繭糸織物陶漆器共進会褒賞式が開かれ、田中芳男審査長の演説あり。演説内容の概略が紙面に掲載される (A. M18. 6. 10).

11 月、大日本織物協会が設立され、田中芳男が副会頭に推される。協会の事務所は東京下谷区南稲荷町 33 番地に所在 (A. M18. 11. 17). また、後日の紙面で協会の設立の経緯や、品川弥二郎と田中芳男がそれぞれ大日本織物協会の会頭と副会頭に推され両者承諾したこと、調査員の山岡次郎が当分協会の事務を取り扱うこと等が紹介されている (A. M18. 12. 5) <sup>(6)</sup>.

### 明治 20 年 (1887 年)

元老院議官田中芳男は 9 月 7 日夕方、横浜より入港の横浜丸にて神戸着。三城方に宿泊 (A. M20. 9. 9). そして、9 月 11 日に大阪商船会社の朝日丸にて宮崎県細島に向かう予定 (A. M20. 9. 10).

元老院議官田中芳男は 10 月 18 日の夜、広島より神戸に到着し、海岸の三城方に宿泊 (A. M20. 10. 20). しかし田中は 10 月 19 日、神戸より薩摩丸にて帰京の予定だったが、乗船を見合わせた (注、その理由は記事にされず). その後武庫郡今津に至り、20 日朝には京都着 (A. M20. 10. 21). 23 日には伏見町に投宿 (A. M20. 10. 25). その後、



大阪島下郡茨木周辺を視察し、25日に四日市へ向けて発ち、そこから汽船にて帰京の予定 (A. M20. 10. 26) <sup>(7)</sup>.

#### 明治 21 年 (1888 年)

大日本農会は 10 月 11 日より 5 日間、第 25 回農産品評会を開催予定。田中芳男ら諸氏を品評委員に委嘱 (T. M21. 10. 5). 15 日午後 1 時より、第 21 回農産品評会(注、言うまでもなく 21 回と 25 回の 2 種の数字の混同がみられる)の褒賞式が執行された。会頭の白川宮殿下が出張中なので、幹事長の田中芳男が代理 (T. M21. 10. 16).

#### 明治 22 年 (1889 年)

3 月 1 日、上野公園桜が岡美術協会が開かれた東京共進会の開場式で幹事田中芳男が祝辞 (T. M22. 3. 2).

3 月 10 日、上野公園内東京教育博物館講義室にて第 32 回東京学士会院講演で田中芳男は「教育と美術の関係」との題目で公演予定 (T. M22. 3. 7). 4 月 14 日、上野公園内東京教育博物館講義室で開催される学士会院講演会で、田中芳男は「教育と美術の関係」との題目で公演予定 (T. M22. 4. 10).

4 月下旬、日本農会議員会が開かれ、常置議員と補欠議員の選挙があった。田中芳男氏ら 9 名が補欠委員に選出 (T. M22. 5. 4).

#### 明治 23 年 (1890 年)

農商務次官候補者として富田鉄之助、花房義質の 2 氏が有力であるが、さらに田中芳男氏が新候補者として名が挙がるばかりか、むしろ最有力候補との情報もある (T. M23. 6. 8).

9 月 14 日、上野公園内東京美術学校講義室で東京学士会院講演会が開催予定。田中芳男氏は「忘(わすれ)の話」との題目で講演するはずなり (T. M23. 9. 11). 10 月 12 日、学士会院講演会で田中芳男氏は「忘(わすれ)の話」との題目で講演予定 (T. M23. 10. 9). 11 月 9 日、学士会院講演会で田中芳男氏は「忘(わすれ)の話」との題目で講演予定 (T. M23. 11.6).

#### 明治 24 年 (1891 年)

4 月 12 日、上野公園内美術学校講義室で学士会院講演会が開催予定。田中芳男氏の講演題目未定 (T. M24. 4. 9).

4 月 25 日、大日本水産会大集会が開かれる。同月 26 日には幹事長、幹事、議員の改選投票。幹事長には村山保氏 77 点で一位(田中芳男と品川弥二郎は共に 5 点で次点)。午後から顧問田中芳男氏の談話あり (T. M24. 4. 28).

5 月 3 日から 10 日まで大日本農会は伊勢山田神苑にて、田中芳男氏を委員長として第 25 回農産品評会を開催予定 (T. M24. 4. 30).

岐阜県大野郡南方村に人春に二度花が咲く不思議な桜の木がある。同県内の某博物家が不思議に思い、博物学者として著名な田中芳男氏に質問するも「未だかつて聞きし事なし」とのみ回答したと言う (T. M24. 5. 9).

6 月 14 日、上野公園東京美術学校講義室で学士会院講演会が開催予定。田中芳男氏は「水産の話」との題目で講演するはずなり (T. M24. 6. 11). 7 月 12 日、上野公園美術学校講義室で東京学士会院講演会が開催予定。田中芳男氏は「水産の話」との題目で講演するはずなり (T. M24. 7. 9).

#### 明治 25 年 (1892 年)

石川県知事岩山敬義は牧畜や開墾などの勸業に熱心であったが、在職中に死去した。大日本農会の田中芳男はじめ諸氏は故人の名を冠した岩山勸業資金と称した義援金を集め、帝国大学農科大学に委託。学生養成に充てたいとの考え (T. M25. 4. 10).

沖縄地方に生息するジュゴン(マンボウ)は水産資源として殆ど利用されてこなかった。水産実

業者はジュゴンが豚骨の代用となるのではないかと考え、水産会に鑑定を依頼した。田中芳男氏は送られてきたジュゴンを偕楽園にて料理させ、豚骨と同様の価値があるとお墨付きを与えた (T. M25. 5. 7)。

帝国議会貴族院にて、村田保提出の水産業の保護に関する建議案の賛同者に田中芳男の名がない事を不審に思った人がいた。田中氏は「賛同者に自分の名がないからと言って建議案に不賛成と言うわけではない」と弁解した (T. M25. 5. 12) <sup>(8)</sup>。

6月2日、帝国議会貴族院にて、審議中の海上衝突予防法案の中で漁網の種類が列記されている。田中芳男氏は独特の学識を以て文言の修正を試みた。(田中氏の学識は高く) 同意せざるものなしとの評 (T. M25. 6. 3)。

北海道で開催中の物産共進会で同地へ出張中の田中芳男氏は 50 点もの穀菽類(穀物と豆類)の標本を購入 (T. M25. 8. 19)。

8月21日、埼玉県北足立郡安行村で日本園芸会の小集会が開かれた。出席者は花房義質会長や田中芳男副会長など (T. M25. 8. 23)。

11月15日、上野公園内旧博覧会第5号館にて大日本水産会の第4回水産品評会が開催された。審査長は田中芳男氏 (T. M25. 11. 16)。同月26日褒賞授与式が行われ、審査長田中芳男氏は審査の状況を報告 (T. M25. 11. 27)。同月27日、水産品評会は事務所にて水産談話会を催し、田中芳男審査長は出品上の得失について講話 (T. M25. 11. 29)。

#### 明治 26 年 (1893 年)

3月1日、日本橋区坂本町銀行集会所にて貴衆両議員中の大日本水産会員 110 余名が集会。田中芳男顧問は支那料理について説明 (T. M26. 3. 3)。

12月9日、帝国議会の開議の号令が鳴り真っ先に入ったのは田中芳男氏。しかし、田中氏は席を間違えて座ってしまった。長松幹氏がそれに気づき田中氏に注意。田中氏は手を額に当て席を去る。一同破顔し笑う (T. M26. 12. 10)。

12月19日、棉花輸入税反対する同志 30 名が赤坂溜池の日本農会にて会談し、棉業奨励会なる団体を立ち上げることを決定。この日参集した貴衆両議員のうち貴族院議員は田中芳男氏など (T. M26. 12. 21)。

#### 明治 27 年 (1894 年)

大日本農会は創会以来の功労者である前幹事長の田中芳男氏を名誉会員に推薦することを内定 (T. M27. 1. 19)。

3月21日、赤坂溜池の大日本農会堂で棉作奨励会の評議会が開かれた。参集者は田中芳男氏など。近日アメリカから到着する同国産棉花の試作に関して協議。また、幸いにも現在全国の府県知事が上京しているので、各県下の試作者の選定のため田中芳男氏ら2名が内務省に赴き、知事たちと直談判する予定 (T. M27. 3. 23)。

9月24日、大日本山林会が本会堂にて役員会を開く。田中芳男幹事長らが出席 (T. M27. 9. 26)。

10月15日、大日本農会は同会名誉会員の田中芳男氏に紫白綬有功章を授与 (T. M27. 10. 19)。

#### 明治 28 年 (1895 年)

棉作奨励会は昨年試作した米国産棉4種のうち、2種が最も紡績に適する良品と判断した。そして、兵庫県西宮町で作った棉に同会評議員の田中芳男氏が説明を付記し、田中氏自らこれを携えて3月13日宮内省へ出頭、花房次官を経て皇后陛下に献納する予定 (T. M28. 3. 13)。

11月17日、大日本蠶絲第1回品評会の賞状授与式が赤坂溜池の大日本農会内蠶絲陳列所にて行われた。来賓は田中芳男氏など (T. M28. 11. 19)。

11 月 23 日より 3 日間、東海農区農会が名古屋市会議事堂において開催。24 日午後には前田正名・田中芳男両名の演説のち懇親会 (T. M28. 11. 27)。

#### 明治 29 年 (1896 年)

3 月 7 日、芝区三田四国町水産伝習所講堂で第 14 回大日本水産会の大集会を開催。田中芳男は「水産博覧会開設について」との題目で演説予定 (T. M29. 3. 5)。

3 月 20 日、赤坂溜池の本会堂において大日本農会第 15 回大集会開会。田中芳男名誉会員の演説あり (T. M29. 3. 22)。

3 月 28 日、第 11 回大日本山林会総会開催。来会者は幹事長田中芳男氏など (T. M29. 3. 29)。

水産会議事長の田中芳男の神戸県会議事堂における水産講話の概要が新聞に掲載 (T. M29. 8. 18)。

大日本水産会幹事長の田中芳男は第 13 回水産品評会褒賞授与式出席のため、10 月 22 日三重県山田へ出張 (T. M29. 10. 23)。

大日本農会は 11 月 1 日から 8 日まで農産品評会を赤坂溜池にて開く予定。審査委員長は田中芳男氏 (T. M29. 10. 28)。

12 月 7 日、農商務省にて臨時博覧会特別委員会が開かれた。出席した委員は田中芳男ら 12 名 (T. M29. 12. 9)。

#### 明治 30 年 (1897 年)

1 月 10 日、学士会院講演会が開かれる予定。講演者田中芳男氏の題目未定 (T. M30. 1. 8)。

上野公園美術学校にて 2 月 14 日開講する講演会の田中芳男氏の講演題目は「近來移植の草本」(T. M30. 2. 11)。

田中芳男大日本水産会幹事長は来る 3 月 11 日より京都府宮津にて開催される水産品評会に出席する。それより出張を命ぜられていた長崎県水産物の視察へも出発予定 (T. M30. 3. 6) <sup>(9)</sup>。

3 月 19 日に九州実業協会大会が長崎公園交親会にて開会。初日の会議が終わった後、田中芳男氏の演説あり (T. M30. 3. 28)。

3 月 28 日、田中芳男氏は東海農場試験場開場式に出席 (T. M30. 3. 31)。

3 月 31 日、田中芳男氏は芝三田の水産伝習所の卒業式と閉所式に参列し告辞 (T. M30. 4. 1)。

4 月 6 日、田中芳男氏は神苑会出席のため三重県へ出立 (T. M30. 4. 8)。

4 月 13 日、田中芳男氏は奈良県吉野郡吉野村で開かれた第 4 回全国材木業連合会に来賓として参列。「自分は大日本山林会の幹事長であるが、山林会と材木会は兄弟の間柄であり、密接の関係を保つべき」と演説 (T. M30. 4. 16)。

4 月 22 日、田中芳男氏奈良より帰京。さらに大日本水産会幹事長の資格で岩手県盛岡の奥羽連合共進会に臨場 (T. M30. 4. 23)。

5 月 3 日、田中芳男氏は岩手より帰京。同月 4 日、農省務内にて水産調査会が結了。田中芳男と伊藤一隆の両氏が提出した「水産調査に要する船舶新営に関する建議案」が可決 (T. M30. 5. 5)。

7 月 4 日、埼玉県蕨町にて日本園芸会臨時小集会開催。東京から田中芳男副会長参列 (T. M30. 7. 6)。

7 月 8 日、神奈川県小田原町若竹座にて水産談話会が開催。田中芳男氏は日本の水産に関して 2 時間演説 (T. M30. 7. 16)。

4, 5 年前、朝顔愛好家は穠久会を立ち上げた。田中芳男・伊藤圭介両氏は既に名誉会員である (T. M30. 8. 3)。

10 月 2 日，神戸相生町相生座において帝国教育大会開催．田中芳男氏演説 (T. M30. 10. 5)．

11 月 13 日，大日本水産会大集会が神戸市県会議事堂にて開催．田中芳男幹事長の先導で小松宮殿下参列 (T. M30. 11. 16)．

11 月 21 日，大隈重信邸で日本園芸会総集会が開催．役員改選で田中芳男氏が副会長に当選 (T. M30. 11. 23) <sup>(10)</sup>．

博物学者田中芳男氏の南京虫に関する談話が新聞に掲載 (T. M30. 12. 18)．

#### 明治 31 年 (1898 年)

1 月 16 日，東京上野公園美術学校講義室において学士会院講演会．田中芳男氏は「山水ハ國の財本」との題目で講演予定 (T. M31. 1. 13)．上野公園美術学校にて 2 月 13 日開講する講演会の田中芳男氏の講演題目は「山水ハ國の財本」(T. M31. 2. 9)．

4 月 23 日，赤坂の会堂にて第 16 回大日本水産会開催．田中芳男幹事長出席 (T. M31. 4. 24)．翌 24 日，田中幹事長は会長席に着き談話会を開く (T. M31. 4. 26)．26 日役員改選選挙．幹事長は田中芳男氏．田中氏は「水産は我が適任に非ず」と次点であった村田保氏を推すも村田氏は固辞．結局，田中氏が幹事長に再任 (T. M31. 4. 28)．

6 月 23 日，大日本水産会及び大日本山林会の田中芳男氏は巡察に出発．まずは伊勢神苑の農業館を視察した後，水産会の用務で石川福井両県を訪問，のち岐阜県に向かう予定 (T. M31. 6. 24)．

第 7 回水産品評会出席のため京都府宮津滞在中の田中芳男氏の水産談が新聞掲載 (T. M31. 9. 14)．

12 月 1 日，神田区淡路町開成中学で工業化学会第 8 回常会が開催．翌 2 日には田中芳男氏講演予定 (T. M31. 12. 1)．

12 月 11 日，東京上野公園美術学校講義室において東京学士会院講演会．田中芳男氏「〇蛇と天狗に就て」(注，一文字判読できず) 題目で講演予定 (T. M31. 12. 10)．

#### 明治 32 年 (1899 年)

鹿児島市水産大会開会式で田中芳男氏は会頭殿下の令旨を代読 (T. M32. 3. 12 及び M32. 3. 16)．

3 月 20 日，田中芳男氏宮崎県に入る (T. M32. 3. 21)．同日，田中芳男氏，前田正名氏らは実業談話会を開催 (T. M32. 3. 23)．8 日の教育会主催の学術演説会に田中芳男氏出席 (T. M32. 4. 14)．

7 月 17 日，田中芳男氏ら山林改良委員一行 130 名が吉野山林視察 (T. M32. 7. 18)．

10 月 14 日，第 17 回大日本山林大会が赤坂溜池会堂で開催．田中芳男幹事長が小松宮殿下の令旨を拝読 (T. M32. 10. 15)．

10 月 20 日，第二回缶詰品評会が開会．第一回は水産会の補助を受け実施されたが，今回から独立した．爾来田中芳男氏を委員長とすることに決定 (T. M32. 10. 21)．

11 月 18 日朝，日本山林会田中芳男氏は仙台入り．県会議事堂で講話会を開催 (T. M32. 11. 19)．

12 月 9 日，全国各市連合会の委員が田中芳男・松平正直両貴族院議員宅を訪問．いずれも市の独立に賛成し，選挙区の立て方や投票の方法については塾考中との回答を得る (T. M32. 12. 11)．

#### 明治 33 年 (1900 年)

大日本山林会役員改選選挙．幹事長は得票数一位で田中芳男氏が重任 (T. M33. 6. 12)．

第 13 回大日本山林総会は来月 7 月 7 日・8 日に静岡市で開催．田中芳男幹事長は 7 月 2 日には同地へ出張予定 (T. M33. 6. 16)．

11 月 1 日，千葉県成田町にて全国農産水産連合品評会が開会．日本農事試験所幹事

長田中芳男氏らが来席 (T. M33. 11. 2) <sup>(11)</sup>.

#### 明治 34 年 (1901 年)

安房農会主催の蔬菜品評会が 1 月 1 日～5 日に開催。田中芳男氏は大日本農会幹事長の資格で褒賞授与式に臨み、6 日に帰京。また、10 日に三重県四日市で開かれる北勢七郡物産共進会に審査長として臨場する予定 (T. M34. 1. 8).

(4 月下旬に) 数日間開催されている内国博覧会評議員で最も激しく議論になっているのは区分目録である。山林会幹事長田中芳男氏の発議により林業は独立させることが決定 (T. M34. 4. 26).

7 月 21 日 22 日両日、青森にて大日本山林会が開会される。田中芳男幹事長は同地に向け同月 15 日出立予定 (T. M34. 7. 3). 田中芳男氏は青森に向け 18 日出立予定 (T. M34. 7. 15). 同月 21 日、田中芳男氏は同地にて内国勸業博覧会出品勧誘の演説 (T. 34. 7. 27). 大日本山林会は津軽半島内真部の大森林を視察。人夫含め 200 余名の行進。うち 9 割は草鞋、田中芳男翁含む残り 1 割は靴を履く (T. M34. 7. 29).

8 月 5 日、田中芳男氏は酒田の商業会議所にて第五博覧会に関する演説を行う (T. M34. 8. 6).

第 5 回内国勸業博覧会への出品奨励するため、各氏が各地への出張を決定。田中芳男氏は北陸方面を担当予定 (T. M34. 9. 27). 10 月 16 日、田中芳男氏福知山着 (T. M34. 10. 19).

#### 明治 35 年 (1902 年)

3 月 2 日千葉県農会が開会。田中芳男氏は出席し講話を予定 (T. M35. 3. 2).

高松にて四国実業大会が開催。5 月 2 日、来席の田中芳男氏は第 5 回博覧会に関して演説 (T. M35. 5. 3). 翌 3 日、田中氏再び演説 (T. M35. 5. 4).

6 月 2 日、田中芳男氏は出張先の関西より帰京 (T. M35. 6. 4).

大日本山林会の役員改選選挙。幹事長田中芳男氏 (再選) (T. M35. 6. 24).

京都市で開催されている第 2 回全国菓子品評会は 7 月 13 日に褒賞授与式を挙行。審査総長の田中芳男氏は会長の冷泉伯の代理として褒賞を授与 (T. M35. 7. 16).

8 月 15 日、北海道の実業大会出席のため田中芳男氏出立 (T. M35. 8. 16).

名古屋で第 15 回大日本山林会が開催中。10 月 19 日、田中芳男氏らは愛知県東春日井郡瀬戸付近の禿山の惨状ぶりや砂防工事を視察 (T. M35. 10. 23).

田中芳男氏が今回の学士会で浅草公園の珍世界について講話 (T. M35. 11. 16).

11 月 30 日、田中芳男氏名古屋より帰京 (T. M35. 12. 2).

#### 明治 36 年 (1903 年)

大日本山林会にて。田中芳男幹事長は老齢であるにもかかわらず、2 日間端然として椅子を全く離れず、一々弁士を紹介する律義さが新聞記事の中で称賛される (T. M36. 4. 7).

田中芳男氏は博覧会水族館にて蓑亀 (注、甲羅に緑藻が生えたカメのこと) を参考品として出展 (T. M36. 6. 23).

明治 37 年度の東京学士会院役員選挙が行われ、田中芳男氏を幹事に選出 (T. M36. 12. 15).

#### 明治 37 年 (1904 年)

6 月 12 日、東京美術学校講堂において東京学士会院の講演会。演者は田中芳男氏で題目「紅葉に就て」の講演予定 (T. M37. 6. 9 及び M37. 6. 12).

#### 明治 38 年 (1905 年)

本日伊勢で開催されている大日本蠶絲会第 8 回品評会の褒賞授与式が挙行。田中芳男氏らの祝詞あり (T. M38. 11. 7) <sup>(12)</sup>.



### 明治 39 年 (1906 年)

3 月 11 日, 東京美術学校講義室において東京学士会院の講演会. 演者は田中芳男氏で題目「貝の話 (附美術工芸上介役の○用)」(注, 一文字判読できず) の予定 (T. M39. 3. 11).

6 月 23 日, 神戸商業会議所にて日本材木業連合大会の総会が開催. 田中芳男氏会長席に着き発会式を挙行 (T. M39. 6. 24).

7 月 15 日, 東京府会議事堂にて東京府畜産会総会が開会. 来賓田中芳男氏の演説 (T. M39. 7. 16).

10 月 14 日, 横浜で実業三大会が開催. うち関東区実業大会の輸出品品評会褒賞授与式では, 田中芳男審査長が審査報告. 同じく水産共進会褒章授与式では田中芳男審査委員長の審査報告 (T. M39. 10. 15).

10 月 26 日, 大日本農会副会長田中芳男氏, 甲府へ出張 (T. M39. 10. 27).

### 明治 40 年 (1907 年)

大日本農会は前副会頭の田中芳男氏を名誉顧問に推薦を決定 (T. M40. 1. 18).

大日本農会附属高等学校校長の田中芳男氏辞任 (T. M40. 1. 26).

東京博覧会の教育水族館. 3 月 25 日, 同館は顧問である飯島理学博士や田中芳男氏ら及び新聞記者を招き, 開館式を挙行 (T. M40. 3. 27).

6 月 16 日, 岐阜県の名和昆虫研究所標本室落成式及び附属農学校開講式に田中芳男氏らが来賓. 名和所長の挨拶に続き田中氏の祝辞 (T. M40. 6. 17).

### 明治 41 年 (1908 年)

6 月 17 日, 大博覧会評議員会が開会. 田中芳男氏は大博覧会規則について質問. 田中氏ら 18 名は出品部類目録特別調査委員に任命される (T. M41. 6. 18).

昆虫学者名和靖氏は蝶蛾鱗粉転写法を発明. 田中芳男氏の手を経てその応用製品 4 種は宮内省及び東宮御所に献納. それぞれ捧呈されたことが 10 日宮内大臣から通牒ありしと (T. M41. 7. 14).

7 月 18 日, 第 19 回大日本山林総会が秋田の県会議事堂で開会. 田中芳男幹事長による開会の辞 (T. M41. 7. 19). 翌 19 日も田中氏が開会のあいさつ. 20 日から 23 日, 田中幹事長らは森林視察旅行の予定 (T. M41. 7. 20).

### 明治 42 年 (1909 年)

10 月 9 日, 京都市で第 20 回大日本山林総会が開会. 田中芳男幹事長が既往の経過報告 (T. M42. 10. 11).

### 明治 43 年 (1910 年)

6 月 21 日, 農務省の生産調査会が開かれる (2 日目). 公有林野の開発問題については 9 名の特別委員を指名して審議を委ねることに決定. 委員長は田中芳男氏 (T. M43. 6. 23). 翌 22 日の生産調査会で田中委員長が経過報告 (T. M43. 6. 24). 24 日に生産調査会は終了. この日, 公有林野開発の特別委員会委員長の田中芳男氏は可決された全文 10 項からなる決議の経過報告 (T. M43. 6. 26).

岐阜県には 2 人の篤学家あり. 一人は昆虫学の名和靖. もう一人は竹林の坪井伊助. 坪井翁と最も深交の間柄なのが老学者田中芳男翁である (T. M43. 9. 10).

### 明治 45 年 (1912 年)

4 月 12 日, 伊勢山田神苑外の徴古館内に据え付けられる有栖川大将宮御二方の銅像の除幕式が挙行. 田中芳男氏が式辞を読む (T. M45. 4. 14).

### 大正 2 年 (1913 年)

大日本山林大会 3 日目の 8 月 19 日, 小樽で日本材木業者連合大会が開催. 主要参加者は朝 8 時発の特別仕立ての列車に乗り札幌を発った. 小樽公会堂で開かれた大会

では田中芳男会長の式辞あり (T. T2. 8. 23). 21 日は札幌の中島公園で園遊会が催される. 大日本山林会総会と日本材木業者大会の参加者が合し, 総数 1200 余名が参集. 田中芳男氏は老軀にむち打ち挨拶するが, 参加者のうち田中の挨拶が聞こえなかった者少くなし (T. T2. 8. 25).

#### 大正 3 年 (1914 年)

4 月 3 日, 徳島県徳島公園にて第 24 回大日本山林大会総会が開催. 総裁の伏見宮貞愛親王殿下の令旨を田中幹事長が奉読 (T. T3. 4. 4).

#### 大正 4 年 (1915 年)

田中芳男氏ら 7 名に男爵を授けられるとの見通しとの報道. 田中の顔写真も掲載 (T. T4. 11. 8). 12 月 1 日午前 9 時, 波多野宮相は宮内省にて田中芳男氏ら 9 名に男爵の爵位を授けるとの沙汰を奉授 (T. T4. 12. 2).

#### 大正 5 年 (1916 年)

天皇皇后両陛下は逝去した田中芳男男爵の生前の功労を思召され, 6 月 23 日金 1500 円の祭料の下賜 (T. T5. 6. 24).

### IV. 引用文献及び註釈

#### I. 日本の博物館の父・田中芳男

- (1) 西尾敏彦「明治農耕文化革命の先導者・田中芳男」(『農業』一六一二号, 二〇一六年) と友田清彦「田中芳男と大日本農会」(『農業』一六一二号, 二〇一六年)
- (2) 特別展開催期間及び展覧会名称は, 筆者が本稿を執筆している平成 28 年 8 月末時点で予定されているもの.
- (3) 保科英人「没後 100 年・帝国議会における元虫捕御用の田中芳男」(『ビオストーリー』二十五巻, 二〇一六年)
- (4) 本文中で述べた 4 件の田中芳男の年譜とは, みやじましげる『田中芳男傳』(田中芳男・義廉顕彰会, 一九八三年) 収録の略年譜, 飯田市美術博物館編『日本の博物館の父田中芳男』(飯田市美術博物館, 一九九九年), 田中義信『田中芳男十話・田中芳男経歴段』(田中芳男を知る会, 二〇〇〇年) 収録の年譜, 田中義信「新資料・田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」(『飯田市美術博物館研究紀要』四巻, 二〇〇四年) 収録の年譜を指す. また, 田中の生涯の概要を手っ取り早く知りたいなら, 小西正泰「『博覧会男爵』田中芳男」(『科学朝日』五八七号, 一九八九年) が好資料である.
- (5) 「田中芳男履歴書」(参議院所蔵) と『華族履歴』(宮内庁書陵部所蔵). 特に, 後者の『華族履歴』は年度別の詳細な田中の事績が掲載されている. ただ, 『華族履歴』は公式文書の性質を持つとは言え, 田中が男爵の爵位を授かったのが死去の半年前であることに留意する必要がある. つまり, 『華族履歴』は事項によっては半世紀以上さかのぼって書かれたものが含まれており, 絶対に間違いがないとは断定しがたい. 実際に筆者は『華族履歴』に記された他の華族の年譜に誤記を見出したことがある.
- (6) 前掲, 田中『田中芳男十話・田中芳男経歴段』によれば, 田中芳男の伝記である前掲, みやじま『田中芳男傳』には間違いが多いという.
- (7) 前掲, 飯田市美術博物館編『日本の博物館の父田中芳男』

#### II. 田中芳男概略年譜 (改良版)

- (1) 前掲, 保科「没後 100 年・帝国議会における元虫捕御用の田中芳男」
- (2) 前掲, 田中「新資料・田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」の年譜ではこの箇所「学医ニ就キ, 四書五経ヲ素読ス」とあるだけなので, 『華族履歴』の説明の方

が冗長である。

(3) 市川兼恭『浮天斎日記』（東京大学史料編纂所蔵）

(4) 前掲，田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」の年譜では田中が幕府出役を免ぜられたのは 22 日とする一方で，下された英和字書 2 冊云々との記録はない。

(5) 有坂隆道編『日本洋学史の研究 IV』（創元社．一九七七年）収録の「舎密局創立之起源并爾来之記録」

(6) 明治 16 年 7 月 17 日付『官報』二十四号から，従五位だった田中が同月 16 日付で正五位を飛び越えて従四位に叙せられていることがわかる。

(7) 前掲，飯田市美術博物館編『日本の博物館の父田中芳男』によれば，明治 18 年（月日不明）に田中は大日本織物協会役員となり，のち副会頭に就任したとある．一方，明治 18 年 11 月 17 日付朝日新聞は「田中芳男君を副会頭として題名の如き会を設立し」との同月 11 日付明治日報の記事を転載した．本箇所はこの転載記事に従った．転載記事は大日本織物協会設立の月日未記載だが，記事の日付からして 11 月上旬と思われる。

(8) 前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』の年譜では 1 月（日付不明），農商工高等会議臨時委員を命ぜられるとある．ちなみに『華族履歴』では 3 月 8 日とある．本稿は日付まで明記されている『華族履歴』に従った。

(9) 『華族履歴』によれば田中が名和昆虫研究所展覧会に臨んだのは 5 月 12 日．一方，前掲，田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」の年譜には 4 月（日付不明）に「名和昆虫研究所ノ昆虫展覧会ヲ処理ス」とある．いずれの日付が正しいかは名和昆虫研究所側の資料を見ればはっきりすると思われるが，筆者未調査．本稿では日付まで明記されている『華族履歴』の数字を採用した。

(10) 明治 36 年 12 月 15 日付東京朝日新聞．第 III 章参照．

(11) 明治 40 年 6 月 17 日付東京朝日新聞

(12) 前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』収録の年譜は大日本山林総会を 5 月開会とし，一方，前掲，田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」の年譜は 10 月とする．III 章で引用する新聞記事から前者の月日が誤記と判断できる．

(13) この評議員就任は前掲，みやじま『田中芳男傳』の年譜より引用．前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』の年譜には未記載．また，前掲，田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」の年譜から，田中がこの年の 5 月に伊勢に赴いたことがわかるが評議員就任との文言は記されず．

### III. 追記．朝日新聞記事に見る田中芳男の足跡

(1) 朝日新聞社史編集委員会編『朝日新聞社史．明治編』（朝日新聞社．一九九〇年）

(2) 朝日新聞記事には近々出張予定とあるだけで，実際に田中が四国へ赴いたかどうかは不明．前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』と田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」収録の年譜にも同年の四国出張の記述なし．

(3) 前掲，田中『田中芳男十話．田中芳男経歴段』の年譜には 4 月 27 日愛知県へ出張命令，5 月 20 日帰京とある．新聞記事と月日が微妙に合わない．

(4) 明治 17 年田中の 4 月～6 月の有馬温泉療養及び四国出張は従来の知見と大凡合致する．しかし，前掲，田中「新資料．田中芳男自筆『田中芳男履歴年表』解説と翻刻」収録の年譜では，田中の動向は有馬温泉で療養→伊予・土佐方面へ調査視察とあるだけだが，新聞記事に従えば間に淡路島や京都市行きを挟んでいることになる．

(5) 前掲，飯田市美術博物館編『日本の博物館の父田中芳男』収録の田中芳男著作目録によれば明治 17 年に『鰯帖．上巻』が刊行されている．鰯図解一覧とはおそらくこの

ことである。

(6) II 章注釈 (7) を参照のこと。

(7) 関西滞在中の田中の動向記事には混乱が生じている。まず、10 月 21 日付紙面では、田中は 22 日には京都から神戸に戻り近江丸にて帰京の予定と書かれた。そして、同月 23 日付紙面には、田中は 21 日午後 6 時 45 分七条発の汽車に乗り神戸に向かい、22 日正午発の近江丸にて帰京の途に上ったとある。しかし、同月 25 日付紙面にて、これらの動向は全て誤聞であったと訂正した。

(8) 筆者は前掲の拙文「没後 100 年。帝国議会における元虫捕御用の田中芳男」の中で「水産業の保護に関する建議案が貴族院で提出された。田中としては単に採決の時に賛成を投じればよいだけなのに、彼は登壇して賛意を表明した」と書いた。この新聞記事から、田中は建議案に反対と周囲から誤解されぬため、わざわざ登壇したと解釈することも可能か。

(9) 前掲、田中『田中芳男十話。田中芳男経歴段』収録の年譜によれば同年の長崎出張は 2 月とある。新聞記事とやや月日が合わない。

(10) 新聞記事からは田中芳男が大隈重信邸に参集したかどうかは不明。

(11) 筆者は日本農事試験所幹事長との田中の肩書は初見。大日本農会幹事長の誤記か。

(12) 新聞記事には「本日午前十時三十分褒賞授与式を挙行」とあるだけで、日付が不明確。11 月 7 日付新聞記事であることを考慮すると、褒賞授与式が行われたのは同月 5 日ないしは 6 日か。